

2026 年 10 月 21 日 全 8 頁

Indicators Update

2026 年 9 月貿易統計

AI 関連輸出は堅調も、原油高などで貿易赤字が継続

経済調査部

エコノミスト

ビリング 安奈

エコノミスト

秋元 虹輝

[要約]

- 2026 年 9 月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+16.7%と 13 カ月連続で増加した一方、季節調整値では前月比▲1.1%と 7 カ月ぶりに減少した。輸入金額は前年比+18.9%と 8 カ月連続で増加した（季節調整値は前月比▲1.9%）。貿易収支は▲5,365 億円、季節調整値では▲7,040 億円と、ともに 5 カ月連続の赤字となった。
- 中東情勢を受けた供給制約は続いているものの、代替調達の進展により 9 月の原油及び粗油（以下、原油）の輸入数量は前年同月をやや上回る水準となった。だが、輸入単価は高止まりしており、中東情勢に起因する供給制約は原油高を通じて輸入金額を押し上げ、貿易赤字の拡大圧力となっている。
- 輸出数量（季節調整値）は前月比▲0.7%と 2 カ月連続で減少した。非鉄金属や鉄鋼といった素材製品や、バス・トラックの減少が全体を下押しした。地域別では、米国向けや EU 向けが前月の反動で減少した一方、アジア向けでは、とりわけ中国向けが増加した。
- 先行きの輸出数量は、全体として横ばい圏で推移するとみている。AI 関連需要が引き続き下支えするとみられる一方、中東情勢の先行き不透明感は引き続き強い。加えて、欧米向けでは、金利高による需要の下振れが輸出を下押しするリスクにも注意が必要だ。

【貿易金額】原油高が輸入金額を押し上げ、貿易赤字は5カ月連続

2026年9月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+16.7%とコンセンサス（同+21.3%、Bloomberg 調査）を下回ったものの、13カ月連続で増加した（**図表1**）。輸出増加の主因は輸出価格（同+14.5%）の上昇だ。円安に加え、旺盛なAI・半導体需要を背景に半導体等電子部品や半導体等製造装置などの価格が上昇していることが寄与したとみられる。輸出の実勢を示す輸出数量は同+1.9%と力強さを欠く。輸出金額の季節調整値は前月比▲1.1%と7カ月ぶりに減少した（**図表2左**）。輸出価格、輸出数量（以下、数量と価格の季節調整値は大和総研による）はともに輸出金額を押し下げた。

輸入金額は前年比+18.9%と8カ月連続で増加した（**図表1**）。輸入の実勢を示す輸入数量は同▲1.6%だった一方、輸入価格が同+20.8%と大幅に上昇し、金額を押し上げた。輸入価格の上昇には、中東情勢による原油及び粗油（以下、原油）や液化天然ガスの価格上昇が背景にある。輸入金額の季節調整値は前月比▲1.9%と減少した（**図表2右**）。

9月の原油の輸入数量は前年同月をやや上回る水準となった。政府資料によれば、9月は航路変更に伴うタンカー到着の遅れから輸入量が前月から減少することが見込まれていたが、政府の見通し（調達率は8月の前年平月比10割超から同8割に低下）ほどには減少しなかった。なお、10月には調達が8月並みに回復する見通しである¹。輸入数量が回復する一方、中東情勢に起因する供給制約は、原油高を通じて輸入金額を押し上げる要因として残っており、貿易赤字の拡大圧力となっている（**図表3**）。貿易収支は▲5,365億円、季節調整値では▲7,040億円と、ともに5カ月連続の赤字となった（**図表4**）。

図表1：貿易統計の概況

		2026年									
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
原系列 前年比 %	輸出金額	16.8	4.0	11.5	14.8	16.8	19.3	23.2	19.3	16.7	
	コンセンサス									21.3	
	DIRエコノミスト予想									18.6	
	輸入金額	▲2.6	10.3	11.0	9.9	12.5	25.4	27.9	28.0	18.9	
	輸出数量	8.8	▲0.9	3.6	3.4	0.4	0.2	5.2	2.4	1.9	
	価格	7.3	5.0	7.5	11.0	16.4	19.0	17.1	16.5	14.5	
	輸入数量	▲0.6	12.2	2.4	▲3.4	▲6.8	1.1	1.2	2.7	▲1.6	
季節 調整値 前月比 %	価格	▲2.0	▲1.6	8.4	13.8	20.8	24.0	26.4	24.7	20.8	
	貿易収支(億円)	▲11,658	366	6,312	2,823	▲3,951	▲4,123	▲6,449	▲11,119	▲5,365	
	輸出金額	10.3	▲5.4	1.6	1.7	1.4	0.5	2.7	0.2	▲1.1	
	数量	4.0	▲2.5	3.0	▲2.3	0.5	▲1.3	1.7	▲2.7	▲0.7	
	価格	6.1	▲3.0	▲1.4	4.1	0.9	1.9	0.9	3.0	▲0.5	
	輸入金額	3.7	3.8	▲2.8	0.2	5.1	7.1	▲0.0	1.7	▲1.9	
	数量	1.9	4.8	▲6.6	▲2.3	0.0	6.1	▲0.9	▲0.6	▲1.5	
	価格	1.8	▲1.0	4.0	2.5	5.1	1.0	0.8	2.3	▲0.4	
	貿易収支(億円)	5,236	▲4,336	184	1,692	▲2,083	▲9,180	▲6,312	▲8,011	▲7,040	
	税関長公示レート	156.91	155.65	156.60	159.27	158.29	159.69	161.83	160.64	157.43	

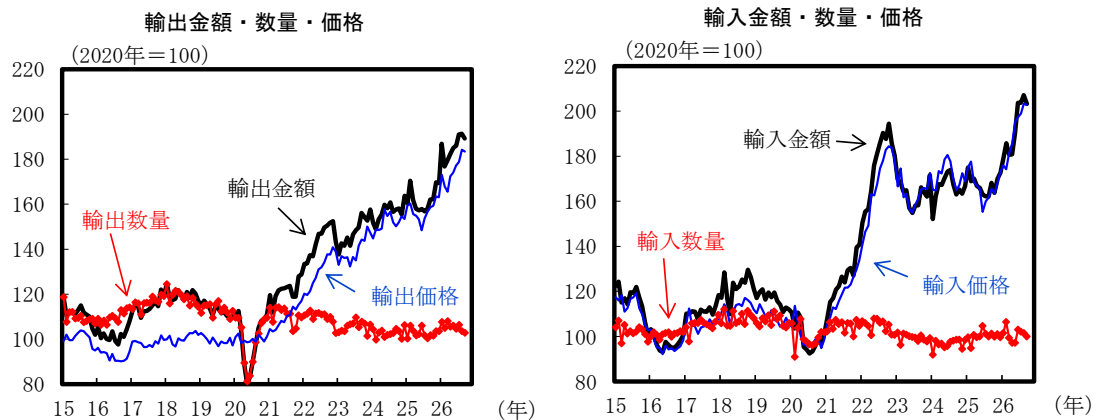
（注1）税関長公示レートは円/ドルレート。コンセンサスはBloomberg。

（注2）数量と価格の季節調整値は大和総研による。

（出所）財務省、Bloomberg より大和総研作成

¹ 詳細は、中東情勢に伴う重要物資の安定的な供給確保のためのタスクフォース（第5回）（2026年10月2日）における[経済産業省提出資料](#)を参照。

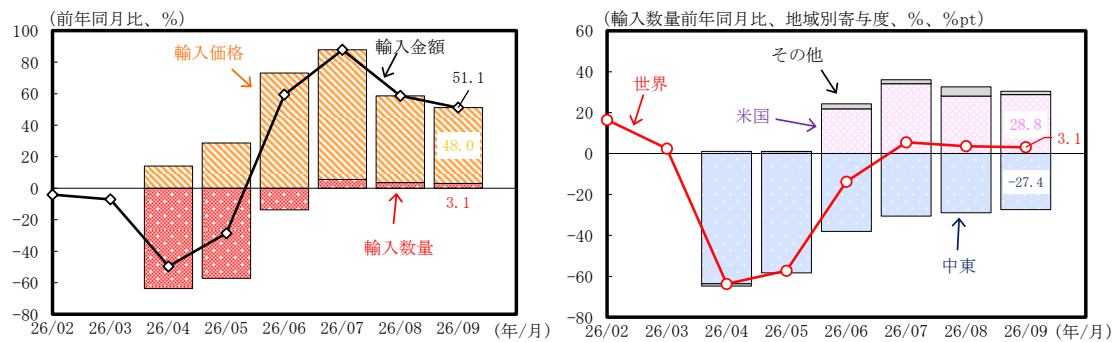
図表 2：輸出金額・数量・価格、輸入金額・数量・価格（季節調整値）



(注) 輸出数量、輸入数量、輸出価格、輸入価格の季節調整は大和総研。

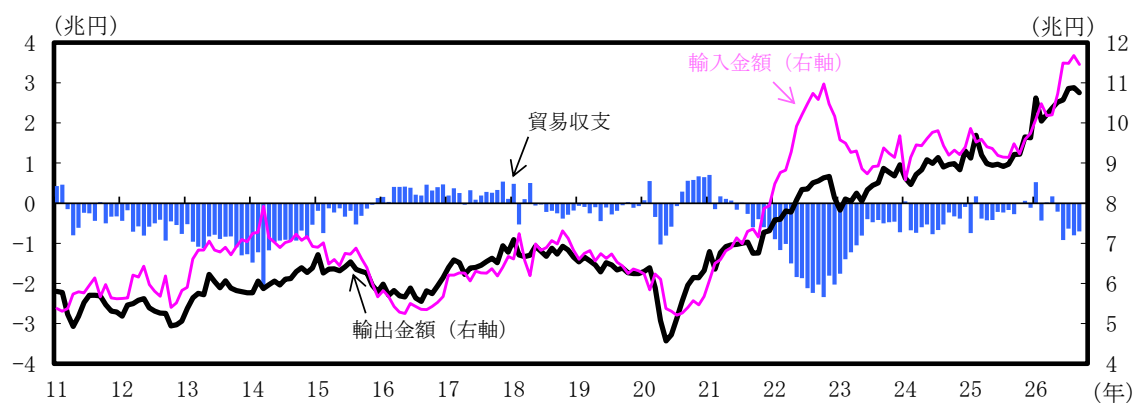
(出所) 財務省統計より大和総研作成

図表 3：原油及び粗油の輸入金額・数量・価格、地域別輸入数量



(出所) 財務省統計より大和総研作成

図表 4：輸出、輸入、貿易収支（季節調整値）



(出所) 財務省統計より大和総研作成

【輸出数量】米国、EU 向けで減少、アジア、中国向けで増加

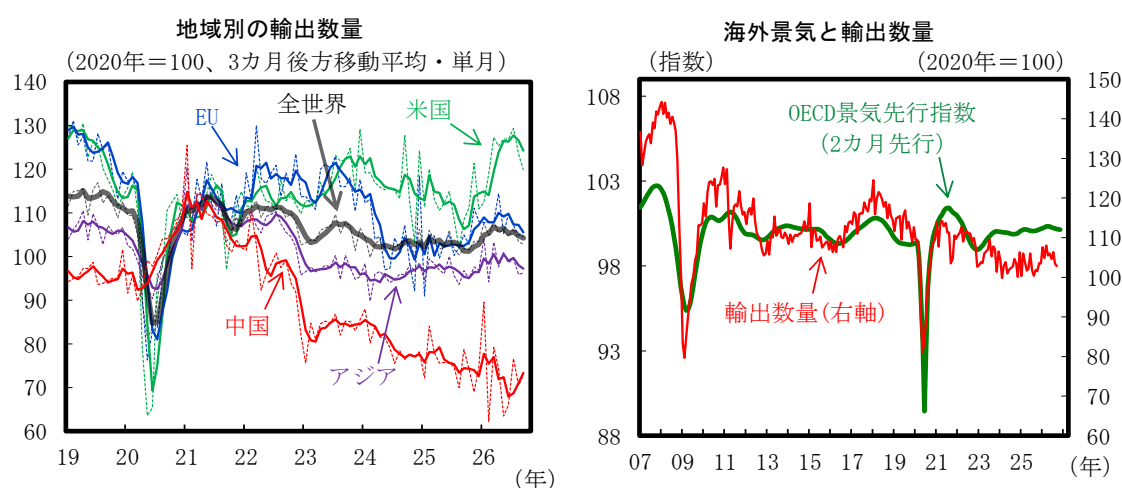
輸出数量（季節調整値）は前月比▲0.7%と2カ月連続で減少した。非鉄金属や鉄鋼といった素材製品、バス・トラックの減少が全体を下押しした一方、振れの大きい船舶や原動機、乗用車が下支えた。地域別では、米国向け（同▲3.0%）やEU向け（同▲0.4%）が減少した一方、アジア向け（同+0.4%）は増加した。アジア向けのうち中国向け（同+3.3%）も増加した（図表5左）。

米国向けは2カ月連続で減少した。医薬品や鉄鋼、バス・トラックなどが前月の反動で減少した。一方、自動車の部分品や原動機が増加したほか、燃料高を背景にハイブリッド車の販売が好調となり、乗用車も増加した。

EU向けは3カ月連続で減少した。二輪自動車や原動機、プラスチックなどが前月の反動で減少した。一方、燃料高を受けて燃費性能に優れているハイブリッド車への需要が高まり、乗用車が増加した。非鉄金属やベアリングなども増加した。

アジア向けと、そのうち中国向けはともに2カ月ぶりに増加した。アジア向けの増加の主因は、振れの大きい船舶の増加だった。中国向けはこのところ減少が続いていた乗用車が増加に寄与した。ただし、前月の反動によるもので、均して見れば軟調な推移が続く。また、プラスチックやIC、原動機、自動車の部分品などの中間財、医薬品も増加したが、引き続き低水準にある。非鉄金属や半導体等製造装置は減少した。

図表5：地域別の輸出数量（季節調整値、3カ月後方移動平均・単月）、海外景気と輸出数量（季節調整値）



(注) OECD 景気先行指数 (CLI) は G20 ベース。輸出数量の季節調整は大和総研による。左図の実線は3カ月後方移動平均、破線は単月の推移を示す。中国向けはアジア向けの内数。

(出所) 財務省、OECD 統計より大和総研作成

【見通し】輸出数量は横ばい圏で推移の見込み、AI 関連需要や中東情勢に留意

先行きの輸出数量は、横ばい圏で推移するとみている。AI 関連需要などが引き続き下支え要因になる一方、中東情勢による悪影響には引き続き注意が必要だ。また、欧米を中心とした金利高が輸出先企業の設備投資や家計の消費を抑制すれば、日本からの輸出に下押し圧力がかかろう。

10 月に入りホルムズ海峡周辺では商船が再び攻撃を受けるなど²、中東情勢の先行き不透明感は引き続き強い。中東情勢の緊迫化に伴う資源価格や海上輸送コスト（運賃・保険料）の高止まりが長期化すれば、物流制約に加え、海外経済の下振れを通じて、輸出数量の下押し要因となり得る。

米国向けは緩やかな増加が見込まれる。米国内での設備投資はAI 関連需要を背景に底堅く推移しており、日本からの資本財輸出への追い風となろう。ただし、米国ではAI の安全性をめぐる自主規制の動きもあり³、今後の AI 関連需要の動向に与える影響を注視する必要がある。また、足元の個人消費には減速感が見られるほか⁴、長期金利の上昇やエネルギー高によるインフレが企業収益や家計の購買力を圧迫し、設備投資や個人消費が抑制されれば、日本からの資本財や耐久消費財の輸出にも下押し圧力がかかるだろう。

アジア向けは横ばい圏で推移するだろう。中国の過剰生産能力を背景とした素材需要の弱さや、中東情勢の影響による国内素材メーカーの稼働率の弱さが、主力の素材製品の輸出を引き続き抑制するとみられる。中でも、中国向けは軟調な推移が見込まれる。2026 年 7-9 月の小売売上は前年比+0.7%と低い伸びが続いたほか、1-9 月の固定資産投資は同▲7.2%と減少幅が拡大しており、中国では内需が低迷している⁵。景気対策による下支えが期待されるものの、内需の弱さが日本からの輸出の逆風となる構図は当面続く見込みだ。

欧州向けは横ばい圏での推移が見込まれる。欧州では景況感の改善が続いており⁶、これが実体経済の回復につながれば、日本の輸出にも追い風となる。ただし、エネルギー価格の上昇による高インフレが家計や企業を圧迫し、欧州向け輸出が下振れするリスクには注意が必要だ。インフレに対処するため、欧州中央銀行（ECB）は 9 月 10 日に利上げを行っており、追加利上げの可能性も示唆されている。さらに、フランスの財政懸念などを背景にユーロ圏では長期金利にも上昇圧力がかかっており、金融環境の引き締まりが欧州景気を下押しするリスクには警戒が必要だ。

² 「[ホルムズ海峡で商船攻撃が急増 イラン高官『米軍の密輸作戦に対抗』](#)」（朝日新聞 デジタル、2026 年 10 月 16 日）

³ 「[トランプ氏、アンソロピックなど AI 企業 20 社と自主規制で合意](#)」（日本経済新聞 電子版、2026 年 9 月 30 日）

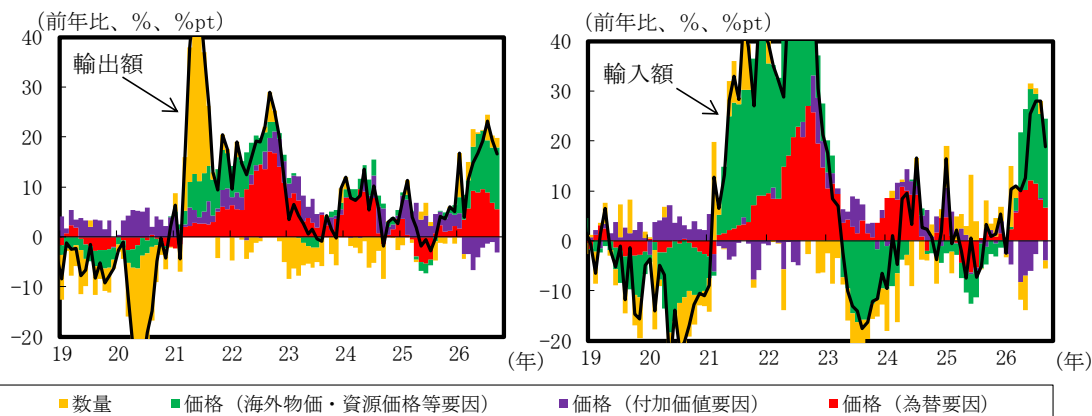
⁴ 矢作大祐・藤原翼「[米国経済見通し 利上げの理由を問う](#)」（大和総研レポート、2026 年 9 月 18 日）

⁵ 齋藤尚登「[中国：26 年 7～9 月は 4.5%成長の低空飛行](#)」（大和総研レポート、2026 年 10 月 19 日）

⁶ 橋本政彦「[欧州経済見通し 足元堅調もリスクは下向き](#)」（大和総研レポート、2026 年 9 月 17 日）

概況

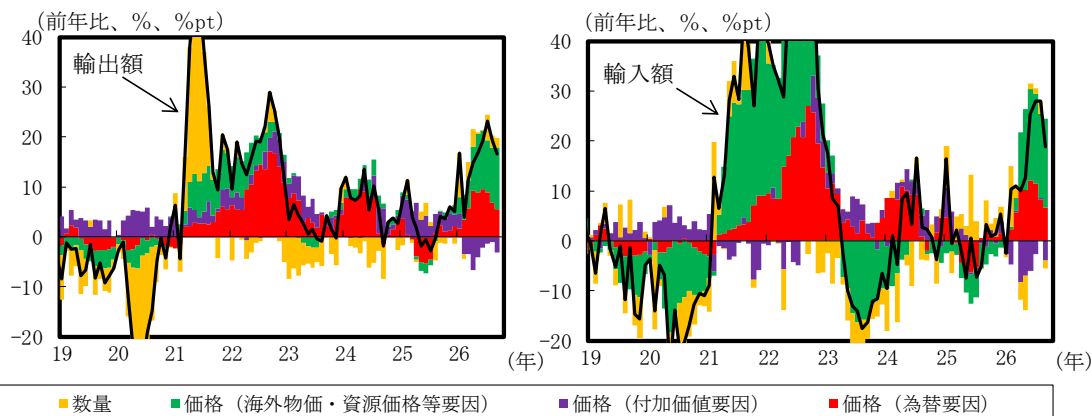
輸出額の変化とその要因分解



(注) 価格（付加価値要因）は、輸出（入）物価指数（円ベース）で実質化した輸出（入）額と輸出（入）数量それぞれの増加率の差。価格（海外物価要因）は、輸出（入）物価指数（契約通貨ベース）の上昇率。価格（為替要因）は、輸出（入）物価指数（円ベース）の上昇率と価格（海外物価要因）の差。

(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

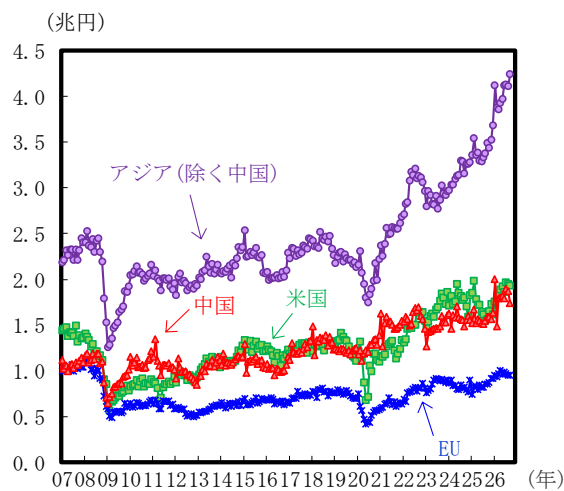
輸入額の変化とその要因分解



(注) 価格（付加価値要因）は、輸出（入）物価指数（円ベース）で実質化した輸出（入）額と輸出（入）数量それぞれの増加率の差。価格（海外物価要因）は、輸出（入）物価指数（契約通貨ベース）の上昇率。価格（為替要因）は、輸出（入）物価指数（円ベース）の上昇率と価格（海外物価要因）の差。

(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

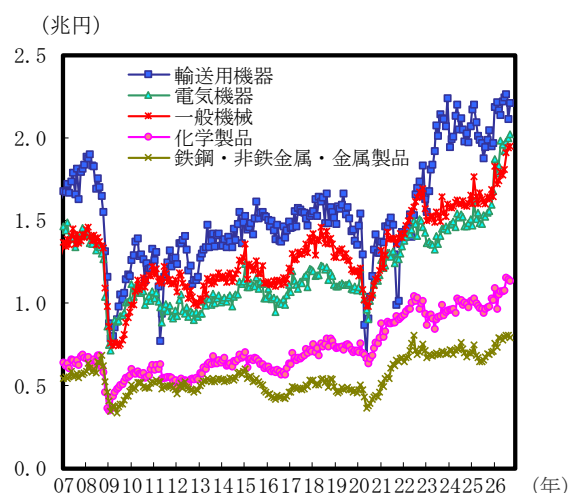
主要地域・国別の輸出額（名目、季節調整値）



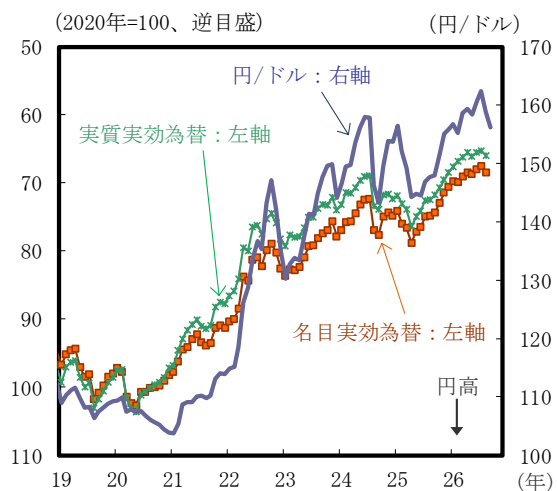
(注) 季節調整は大和総研。

(出所) 財務省統計より大和総研作成

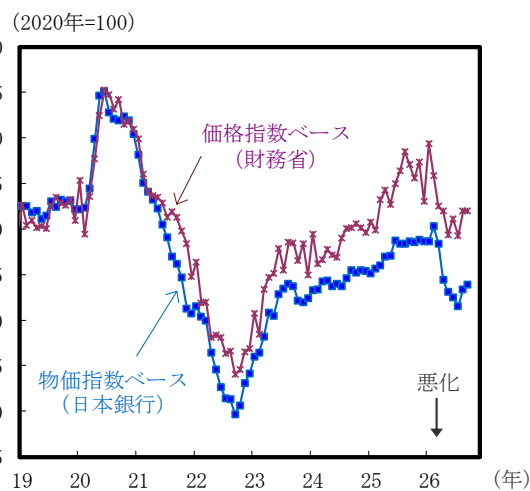
主要商品別の輸出額（名目、季節調整値）



為替相場



交易条件



(注) 交易条件は、輸出価格指数/輸入価格指数（輸出物価指数/輸入物価指数）。輸出入価格指数の直近値は大和総研による試算値。

(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

輸出金額 内訳								
	2026/04	2026/05	2026/06	2026/07	2026/08	2026/09		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	14.8	16.8	19.3	23.2	19.3	16.7	100.0	16.7
食料品	15.3	13.8	7.6	12.7	14.4	▲0.0	1.1	▲0.0
原料品	24.2	35.8	39.8	27.4	25.5	16.5	1.7	0.3
鉱物性燃料	10.7	139.4	31.8	172.5	144.1	52.0	1.8	0.7
化学製品	8.8	10.9	11.3	22.8	18.2	16.4	10.1	1.7
原料別製品	15.3	16.6	19.8	20.5	18.5	12.7	10.1	1.3
鉄鋼	▲2.9	3.1	11.0	7.1	14.0	3.2	3.1	0.1
非鉄金属	48.7	46.5	47.4	47.4	29.9	27.8	2.8	0.7
金属製品	11.7	15.3	11.8	21.3	14.8	16.0	1.3	0.2
一般機械	12.5	6.4	10.9	18.3	20.9	18.4	17.8	3.2
電気機器	28.6	32.4	29.4	29.4	31.5	30.3	19.6	5.3
半導体等電子部品	41.6	61.2	53.8	49.1	52.3	49.4	8.5	3.3
I C	43.9	74.0	58.8	52.0	56.9	55.5	6.7	2.8
映像機器	16.9	2.8	10.6	▲13.0	21.0			
映像記録・再生機器	25.3	7.8	16.2	▲10.8	54.1	17.2	0.4	0.1
音響・映像機器の部分品	11.2	17.0	1.2	10.0	10.5	6.9	0.1	0.0
電気回路等の機器	16.1	14.5	17.7	14.4	15.0	13.2	2.0	0.3
輸送用機器	6.0	12.9	14.4	20.7	7.9	10.8	20.8	2.4
自動車	3.5	13.7	23.0	19.4	16.5	15.1	15.7	2.4
自動車の部分品	4.4	3.7	0.5	1.9	▲0.6	3.7	2.9	0.1
その他	18.1	16.8	27.9	19.7	11.6	9.8	17.0	1.8
科学光学機器	16.5	15.9	19.6	16.5	19.5	11.6	2.2	0.3

米国向け輸出金額 内訳								
	2026/04	2026/05	2026/06	2026/07	2026/08	2026/09		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	9.5	12.3	12.9	22.0	24.9	22.9	100.0	22.9
食料品	28.1	37.5	7.4	45.8	34.3	13.6	1.2	0.2
原料品	19.2	12.8	11.3	38.2	73.1	51.5	0.5	0.2
鉱物性燃料	237.5	1682.8	70.4	158.7	▲34.5	502.1	0.2	0.2
化学製品	7.2	2.5	▲12.6	45.6	30.7	41.0	7.8	2.8
原料別製品	16.8	20.7	5.6	23.7	28.6	22.0	7.0	1.5
鉄鋼	11.3	14.8	▲0.4	▲14.5	67.6	31.6	1.4	0.4
非鉄金属	44.6	85.1	13.8	126.4	25.7	28.9	1.3	0.3
金属製品	8.5	9.9	3.4	21.6	12.8	23.2	1.5	0.3
一般機械	15.4	1.5	3.4	10.2	25.8	18.4	23.0	4.4
電気機器	18.9	19.1	8.3	13.6	24.0	28.5	15.7	4.3
半導体等電子部品	4.6	61.6	9.5	9.2	12.8	31.0	1.3	0.4
I C	▲6.6	95.6	5.3	▲6.2	10.2	33.6	0.6	0.2
映像機器	9.6	14.0	37.4	▲8.7	125.2			
映像記録・再生機器	5.9	21.1	47.0	▲21.0	153.2	32.8	0.6	0.2
音響・映像機器の部分品	17.4	37.9	▲12.3	▲0.7	26.7	18.1	0.2	0.0
電気回路等の機器	3.3	19.7	13.8	15.4	18.3	24.4	1.4	0.3
輸送用機器	0.2	16.1	26.8	27.6	22.1	25.6	31.8	8.0
自動車	▲2.3	18.7	34.5	32.1	28.0	31.0	24.3	7.1
自動車の部分品	8.6	3.7	2.5	14.4	0.7	15.7	5.4	0.9
その他	10.6	11.1	20.5	23.1	24.2	9.7	13.0	1.4
科学光学機器	29.2	17.6	25.9	21.1	25.8	29.1	2.8	0.8

EU向け輸出金額 内訳								
	2026/04	2026/05	2026/06	2026/07	2026/08	2026/09		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	27.0	14.0	20.2	19.1	11.0	10.5	100.0	10.5
食料品	46.2	8.7	22.2	24.8	28.3	2.5	0.8	0.0
原料品	41.6	▲15.2	60.1	6.6	9.0	1.3	0.9	0.0
鉱物性燃料	48.2	▲1.3	14.6	44.1	741.3	8.8	0.1	0.0
化学製品	5.2	5.0	10.0	8.0	14.8	2.6	8.9	0.2
原料別製品	15.5	▲2.5	12.5	2.4	8.3	11.3	6.7	0.8
鉄鋼	6.1	▲5.9	10.3	▲14.0	▲10.4	21.0	1.5	0.3
非鉄金属	13.3	2.9	35.9	19.2	34.0	16.0	1.0	0.2
金属製品	18.1	▲1.0	15.1	19.2	17.8	13.9	1.4	0.2
一般機械	44.2	9.9	12.5	19.2	16.4	▲1.2	17.9	▲0.2
電気機器	27.7	6.3	12.5	10.2	9.4	0.7	15.4	0.1
半導体等電子部品	19.5	10.0	24.5	18.1	7.6	13.4	2.5	0.3
I C	16.6	23.9	50.3	22.5	24.0	32.7	1.0	0.3
映像機器	2.4	▲6.3	▲16.8	▲33.9	21.8			
映像記録・再生機器	7.5	▲1.2	▲15.0	▲34.3	31.4	15.9	0.9	0.1
音響・映像機器の部分品	2.1	▲8.6	7.1	37.1	▲7.5	▲6.1	0.1	▲0.0
電気回路等の機器	19.8	2.5	6.1	6.8	5.9	▲7.1	1.4	▲0.1
輸送用機器	36.0	32.1	40.8	36.6	4.3	28.8	31.5	7.8
自動車	48.2	56.5	60.0	46.8	15.8	31.9	24.0	6.4
自動車の部分品	1.1	▲19.0	▲6.8	▲8.0	▲8.7	1.7	3.2	0.1
その他	13.7	20.4	15.2	17.6	11.0	10.4	17.7	1.8
科学光学機器	19.4	18.2	13.1	▲5.7	7.7	▲4.7	3.7	▲0.2

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。映像機器は、速報時点では公表されない。

(出所) 財務省統計より大和総研作成

アジア向け輸出金額 内訳								
	2026/04	2026/05	2026/06	2026/07	2026/08	2026/09		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	16.1	19.4	22.6	24.4	21.3	17.5	100.0	17.5
食料品	11.5	11.4	11.9	10.7	14.0	3.9	1.3	0.1
原料品	25.0	43.4	42.5	28.9	22.7	15.5	2.6	0.4
鉱物性燃料	▲5.1	47.7	14.8	148.0	203.3	36.3	2.2	0.7
化学製品	11.3	14.6	18.5	19.7	17.5	14.2	13.0	1.9
原料別製品	18.0	20.5	25.0	24.3	18.7	14.1	12.3	1.8
鉄鋼	▲3.3	7.5	11.9	12.5	10.3	2.3	3.6	0.1
非鉄金属	50.1	44.3	54.6	44.8	29.6	29.8	4.4	1.2
金属製品	10.2	19.9	14.1	24.2	19.5	13.6	1.3	0.2
一般機械	7.1	9.2	14.9	24.1	22.1	28.0	18.3	4.7
電気機器	31.0	39.9	37.5	36.6	36.4	36.1	25.6	8.0
半導体等電子部品	44.5	64.8	57.7	52.5	56.1	51.8	14.4	5.8
I C	45.9	75.1	60.2	53.9	58.5	56.3	11.7	4.9
映像機器	18.9	1.0	16.2	▲5.4	▲6.1			
映像記録・再生機器	39.4	9.5	25.4	17.8	36.3	18.9	0.3	0.1
音響・映像機器の部分品	5.1	13.6	8.9	3.8	▲2.7	▲5.7	0.1	▲0.0
電気回路等の機器	18.0	14.8	19.2	15.9	16.1	13.6	2.8	0.4
輸送用機器	5.3	9.1	▲0.2	11.1	▲15.2	▲13.1	6.1	▲1.1
自動車	5.7	15.1	0.8	▲7.6	▲13.4	▲18.9	3.5	▲1.0
自動車の部分品	3.6	7.7	▲4.4	▲8.5	▲5.0	▲6.1	1.7	▲0.1
その他	15.4	11.8	25.2	12.6	10.0	5.0	18.6	1.0
科学光学機器	11.7	16.0	18.6	22.7	21.9	11.0	2.2	0.3

中国向け輸出金額 内訳								
	2026/04	2026/05	2026/06	2026/07	2026/08	2026/09		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	15.5	17.9	17.6	25.8	20.5	8.6	100.0	8.6
食料品	0.2	▲7.2	7.3	4.7	22.9	22.9	0.7	0.1
原料品	44.2	77.7	61.4	27.6	24.8	37.1	4.7	1.4
鉱物性燃料	116.7	61.1	0.3	159.6	0.0	42.9	1.1	0.4
化学製品	8.5	11.6	14.3	12.6	12.0	8.6	17.7	1.5
原料別製品	17.8	18.9	18.0	19.6	12.6	5.7	10.0	0.6
鉄鋼	▲4.0	▲13.8	▲1.0	▲2.0	▲5.5	▲5.7	1.9	▲0.1
非鉄金属	47.8	59.6	39.6	44.7	33.8	18.8	4.0	0.7
金属製品	▲6.8	▲2.8	4.8	2.8	▲1.6	▲5.7	1.2	▲0.1
一般機械	▲4.2	▲2.7	6.9	23.1	18.8	16.3	26.7	4.1
電気機器	38.9	40.5	36.8	57.3	55.8	14.2	21.8	2.9
半導体等電子部品	88.6	84.9	77.5	129.2	131.3	14.0	8.3	1.1
I C	121.6	105.1	89.3	174.3	170.5	8.2	5.5	0.5
映像機器	30.1	▲5.2	16.6	▲13.7	▲6.6			
映像記録・再生機器	51.0	▲1.5	26.6	26.3	78.4	26.1	0.4	0.1
音響・映像機器の部分品	▲9.8	▲1.0	4.7	10.6	9.8	▲2.7	0.2	▲0.0
電気回路等の機器	12.9	11.4	14.3	12.2	13.6	7.8	3.4	0.3
輸送用機器	3.6	13.9	▲17.6	▲36.2	▲51.8	▲55.5	3.3	▲4.4
自動車	10.3	20.0	▲24.9	▲34.0	▲53.5	▲59.8	2.2	▲3.5
自動車の部分品	▲3.6	4.4	▲34.9	▲50.0	▲51.0	▲48.0	0.9	▲0.9
その他	18.1	18.4	23.1	32.5	18.5	14.9	14.0	2.0
科学光学機器	8.2	11.2	▲1.5	14.0	19.3	7.1	3.4	0.2

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。映像機器は、速報時点では公表されない。

(出所) 財務省統計より大和総研作成